

さんこ
②三鈷沢

聖地「三鈷沢」は、羽黒派古修験道の開祖であり、能除仙（大師・太子）とも称された蜂子皇子の出羽三山開山に至る最後の修行地であった、とされる秘所中の秘所である。

2020(令和2)年11月19日(木) 同所に単独で抖擻、登拝して来たのでその記録である。

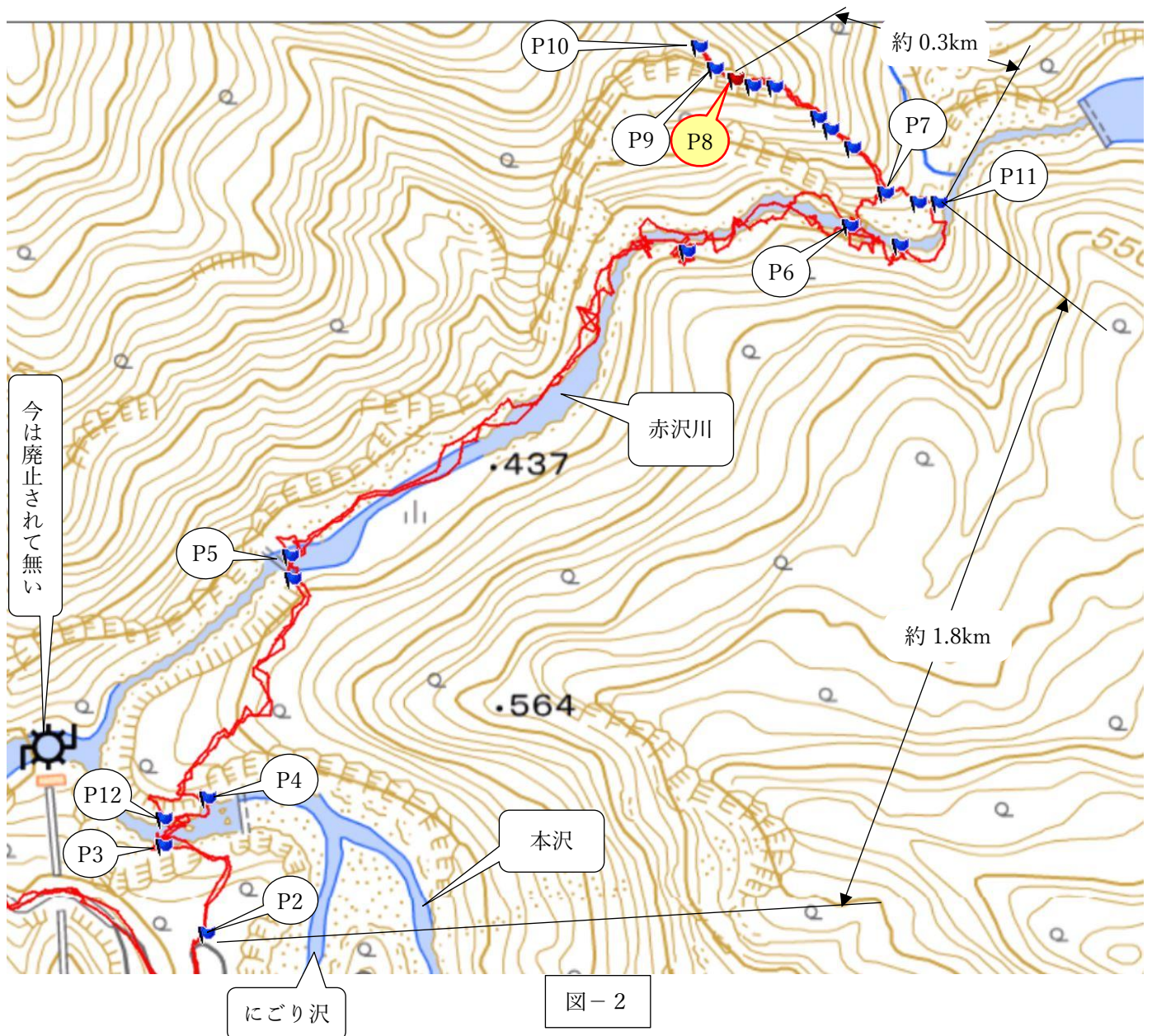
(前日の18日は、羽黒山側中台は御滝神社への往復を歩いたが別記する。)

1. 行程

以下、図中の赤い（あるいは緑）色のくねくね実線は、携帯したGPS機（ガーミン社製オレゴン650t）のトラックログ（軌跡・足跡）である。図-1は駐車位置P1から秘所の三鈷沢遥拝所まで歩いた全体のルート軌跡である。なお、PはPoint、図-1・図-2吹き出し中の P_n ($n=1\sim12$) 文字は、下段説明の中で用いる節目の地点である。各図で使う P_n は同じ場所を指す。



- ・ 前日泊の休暇村庄内羽黒を朝7時に出発し、北月山荘近くで林道ゲート手前の空き地にP1駐車し、7時30分に立谷沢川左岸沿い林道を南東向けに歩き出した。
- ・ 8時34分にP2車道を離れて、立谷沢川（本沢・にぎり沢合流直後の川）に降りて行った。8時38分P3左岸河原に着いた所で靴を登山靴からスパイク付地下足袋に交換した。
- ・ 対岸（右岸）へ重機が通った道筋はあったが、川に入り対岸の状況を見渡すと、P4樹木に1本のロープと1本の金網状の鉄縄がぶら下がっていたことからそこを目指して、腰まで浸かりながら川を漕いだ。8時50分ロープに掴まり体を引き上げた、ロープ以外掴まる樹木などはない。足は濡れた滑り易い岩に当たるといった感じであった。山伏修行においてよくぞこんなにも危険な所を登らせるのかと息を飲んだ。この渡渉中にバランスを崩しトレッキングボールの1本を流してしまった。
- ・ 右岸の山道に入ると一部真新しい赤色のビニールテープが所々の枝に下げられていた。
- ・ 9時5分赤沢川のP5アーチ式砂防ダム河原に降りて行った。山際ダム取付部には梯子上の鉄棒があり難なく河原に降りられた。その後の河原には踏み跡もテープもなかった。



- ・ 予め想定していた三鈷沢の目標点に行くべく、川漕ぎをしながら歩いた。殆どは膝下の水位であったが、2か所は股まで、1個所は腰までの所があった。見た目以上に川流れの強い水圧が体に掛かった、川底の石の滑り具合は視認出来ないので、慎重を期して歩を進めた。
- ・ 河原から外れて尾根に取り付くが、正規ルート上り口と思われる所から約 200m 手前で立止り思案した。瀬（緩やかな流れで貯水状態）があって、そこを渡って河原を進むことは可能だったが、想像するに胸高くらいの深さを感じたことから渡渉は回避すべきと判断した。山側崖淵を 10m ほど越えられなくもなかったが、滑る危険を感じそれも止めた。そこで、9 時 45 分その **P6** 立止り点から尾根に直登した。9 時 51 分 **P7** 尾根に付いた所の枝に赤いテープが結ばれていた。
- ・ 急坂の尾根（『櫛の峰』と称されるようだ）を登り、傾斜が緩んだ所で雑木がなくなりパッと開けた。何とそこに、枯れてはいたが **1** 椿の小枝に紙垂を結んだものと **2** お賽銭と **3** 横たわった 1 本のローソクがあり、その雑木には目印の赤色ビニールテープが結んであった。目を遠望にやると雪化粧の月山と手前に藁田禿山（東補陀落の聖地）が、快晴青空の中にくっきりと手に取るように横たわっていた。これらの状況から 10 時 14 分ここが **P8** 「御秘所の三鈷沢遥拝所」（『大日森』と称される）と確信した。
- ・ 小休止後、（ここから先、赤色テープはなかった。）先に歩を進めたら 10 時 18 分 **P9** 大きな松（3 本に

見えるが株は2本)があった、ここまでは踏み跡があった。その先に踏み跡もないが、10時21分太めのP10ブナが6本ほどある所まで行って、折り返して来た。

- ・ 10時27分 P8 同遥拝所(標高605m)に戻り、ザックを降ろして少し非常食を口にした後で、私なりの祭儀を挙行した。2礼2拍手1礼を以って東西南北の四方、月山方向ならびに目前の大岩壁(標高610m)方向に向かって遥拝した。月山頂部には月山神社、その右方向奥には湯殿山神社が、大岩壁頂部方向奥には羽黒山は出羽神社が鎮座している。この聖地まで来られたことに対し、出羽三山の大御神と八百万の神々を讃え、そして、快晴をくれたお天道様のご加護に感謝し、次の言葉を大きな声で奉唱した。
出羽三山三語^{さんごはいし}拝詞を3回、祓^{はらえ}詞、般若心經、亡き家族の戒名、キリスト教御言葉、最後に三山^{さんやま}拝詞を3回奉唱した。無性に涙が零れて来た。
- ・ 11時00分、同遥拝所を離れ下山の途に付いた。
- ・ 尾根上の所々に結んである赤いテープを視認しながら下り、赤沢川の河原に降りる直前に、11時23分このP11尾根に取り付く目印(上り口表示)の赤いテープを確認した。
- ・ 行き(上り)に避けた^{とろ}滞りの所は、山側崖の上に迂回して再び河原に降りた、ここで、11時32分前記P6地点に合流し、後は来た河原を引き返した。
- ・ 12時36分再び立谷沢川本流に出合った。この時は、川はP12重機の通り道を渡渉した。川底の石は重圧で敷き詰められた状態になっており、このルートの方がより安全であった。
- ・ 12時40分左岸は前記P3点で靴を登山靴に履き替え小休止を取った。
- ・ 13時00分前記P2点で車道に合流し、山道歩きや川の渡渉はここまで終わり。ここからは林道歩きであった。
- ・ 14時10分前記P1点の車に着き、全日程を終了した。

.....

図(表)-3は、各節目の地点の時刻と累積の時間である。林道と離れてからは「P2~P8地点三鈷沢秘所(遥拝所)」までは、歩いたルート上中央ラインで約2.1km(尾根取付点まで1.8km、そこから同拝所までは0.3km)の距離で、私の足で100分(1時間40分、歩行時速1.1km/h)であった。戻って、P2林道合流までの往復4時間26分を要した。途中、写真撮影や休憩を含めた時間である。

なお、駐車位置までの往復に8時間40分、丁度良いロングタイムとなった。

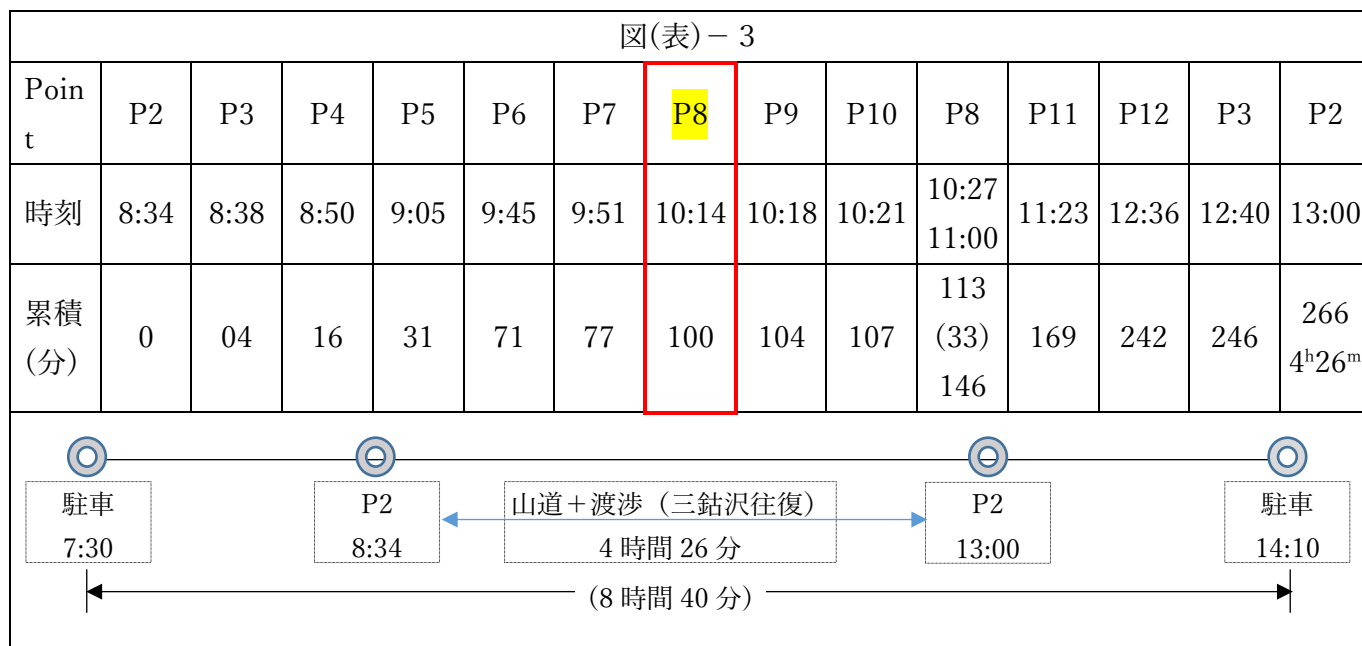
2. 時期・月日の設定

2020(R2)年10月27日(日)、途中までの予備調査(後記)と思いつつ・・・、知人2人で行ったが、懸念していたとおり、相手方の不調で5分の1の所で断念し、折り返していた。しかし、日々何としても本年中に実現したいという思いがより強まった。

(1) 天気のこと

目標とする地点まで行くためには、河原を歩きながら川を何度も渡渉横断しなければならないことから次の条件を満たす時期を考えた。ある本には「48回渡渉」とあった。

- 水量が多くない時期、何より水が冷たくない時期を考えて来た。いわゆる川漕ぎは経験がないのでスパイク付地下足袋を購入した。なお、二つの山伏修行(後記)は8月下旬である。



○ さらには「道は無い」、「熊の巣窟」ということも聞いていたことから葉が落ちて出来るだけ見通しの良い時期、そして、特に晴れの日を検討した。

しかし、山形地方気象台は11月4日(水)、山形市の^{りゅうざん}瀧山(1362メートル)の初冠雪を観測したと発表した。また、11月9日(月)から10日(火)にかけても降雪があった。地元では^{りゅうざん}瀧山に3回降ると里にも雪が降る、本格的な冬到来と言われて来た。自宅からも月山は既に真っ白の雪化粧、月山の山塊群に位置すると言っても良い山奥の三鉢沢(標高605m)に“残雪はないのか？ 川の水は雪解け水が混じって冷たくないのか？ 来年に挑戦しよう”という弱音が湧き出した。そんな中、週間天気予報、高層天気図(本の少しだけ読める)に毎日注視して来たが、3日前の17日(火)に、私の奥底に住む合祭神(syncretism God)から「19日に三鉢沢に行け！」という指令が下った、後は躊躇してられない！ それ行けドンドン、行くことを決断した。

(2) 日にちの数字と語呂合わせ／図(表)－4

日常生活においては、縁起担ぎをするということは皆無に等しい。しかし、直感でここぞという時にはこじつけで遊んでいる、私流の一つの呪術である。頭の片隅には天気予報、他方には11月の暦を見ながら決行の日を絞っていた。そこで直感、浮かんだのが11月18日(水)と11月19日(木)だったのです。

『^{いっばついく}1819』——“一発行く”これは縁起が良いとなったのだ。後は天気次第、“ここぞ一念発起、今この時を逃してどうするのだ”というお天道様の声が私の無意識層の奥底に侵入し叫んだのである。

図(表)－4		
暦 日	18 日 (水)	19 日 (木)
読み・語呂合わせ	一点集中を以って末広がりの八に期待せよ	一心不乱を以って苦難に挑めよ
	いっぱつ (一発)	いく (行く、行け)
六曜 かみほとけ (神 仏の囁き)	先勝	友引
	先(明日)に希望を持って	一緒に着いて来い

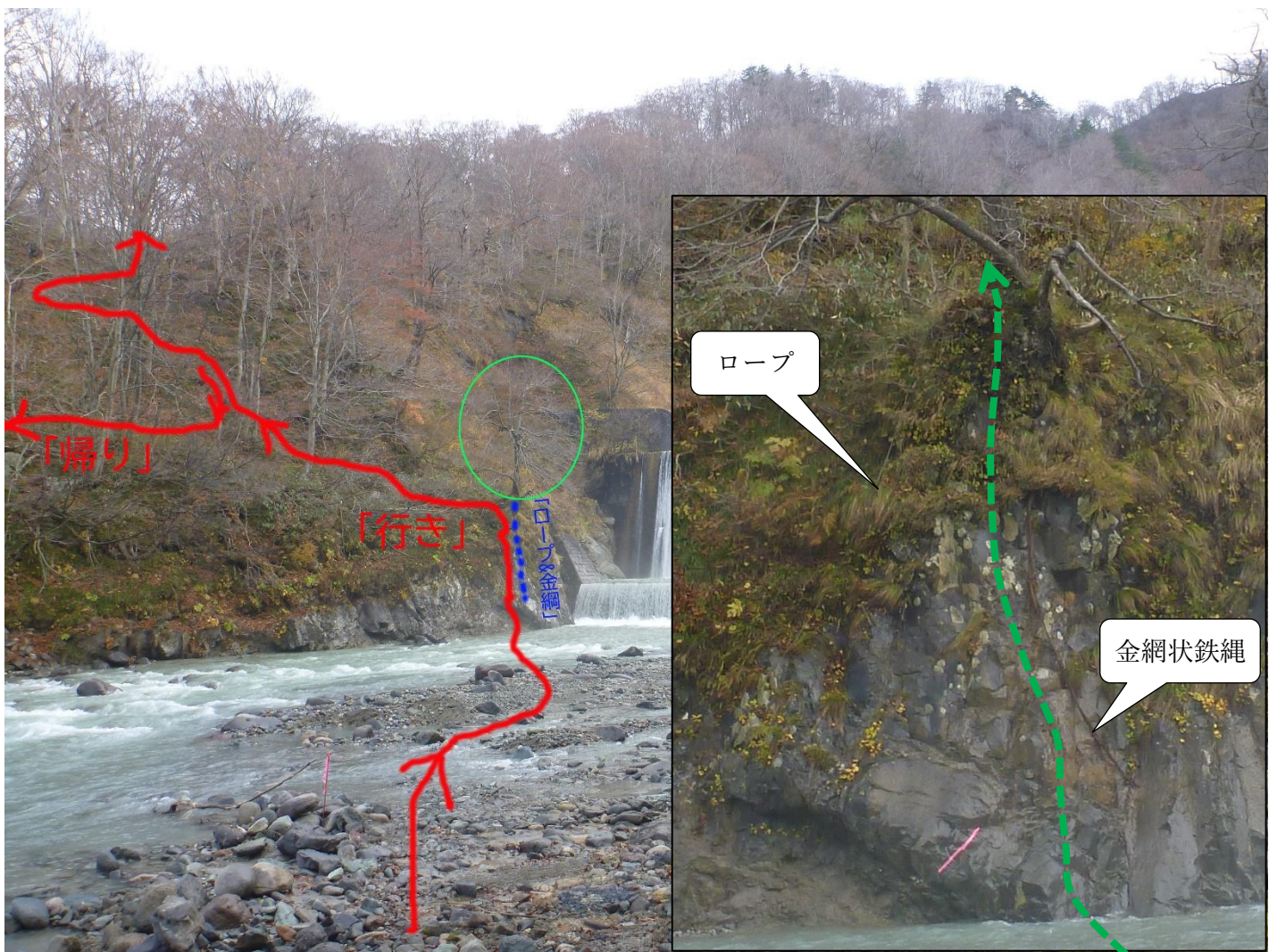
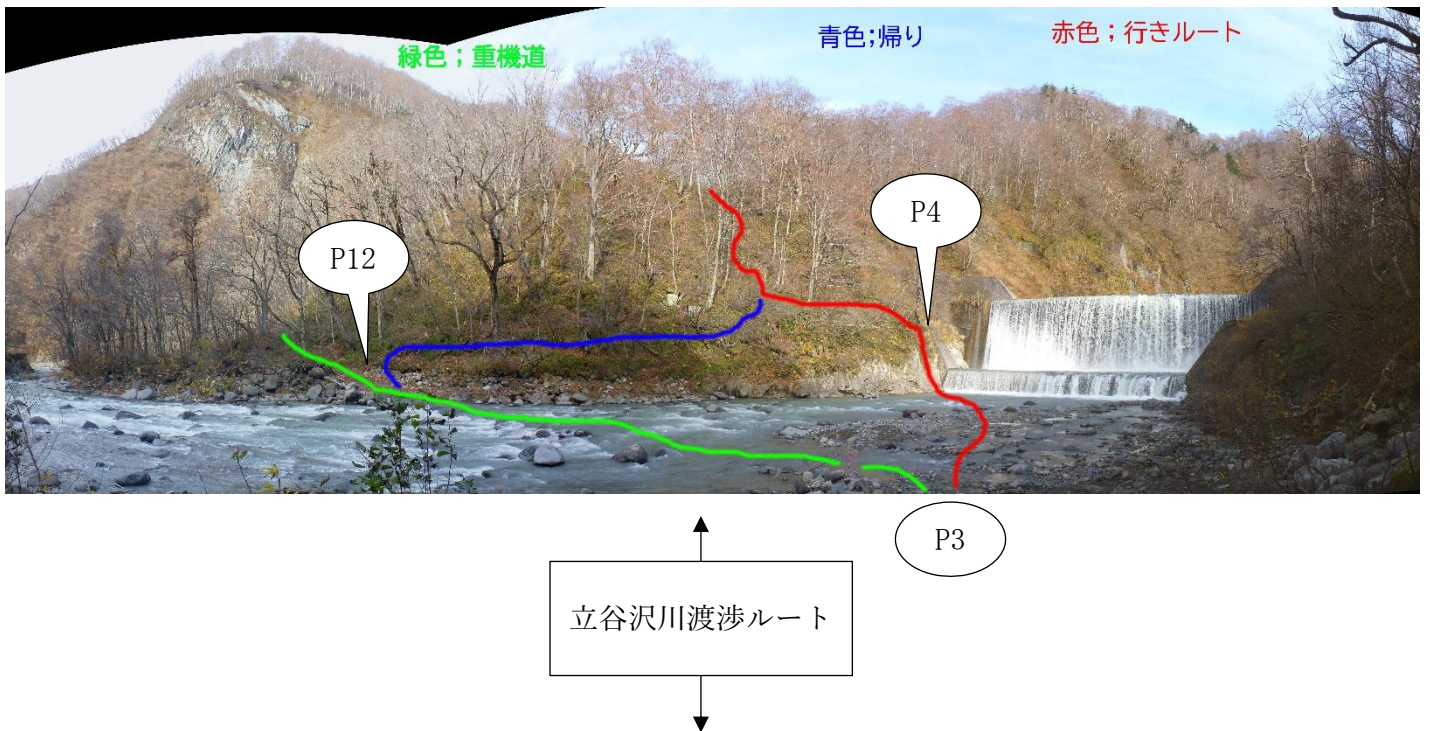
(3) 結果して快晴の日、大当たりであった。

現地は、前日の18日(水)は晴れ時々薄曇り、当日の19日(木)は晴れから快晴となった。当日の宿を発つ7時頃の空は、所々雲はあったものの大方快晴に近く「今日は晴れ」と確信した。終日無風状態で、最高気温は15度以上あったと思う、まったく寒気を感じず、汗が滴り落ちることもなく、いわば“熱くも無く寒くも無い”快適な独歩登拝^{とそう}抖擻行となった。歩き始めからお天道様と一緒にだから、心はルンルンである。2回ほど川の中で転んだが、濡れた衣服はまもなく乾いた。決行するまではいろいろ思い悩んだが、結果してお陰様で念願が適った。

3. ルートの見極め

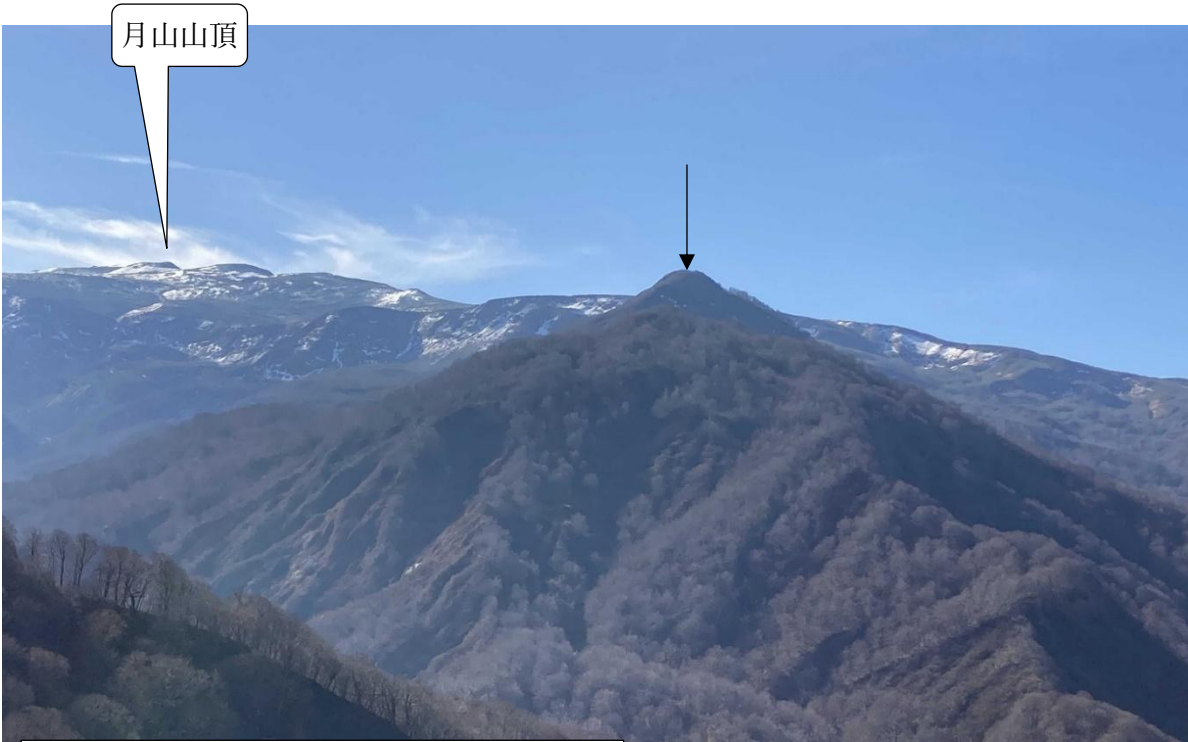
三鈷沢は山伏修験道にとっては秘所中の秘所、極秘の場所である。山伏の間では口伝で受け継がれて来たということ。私は相当数の書籍を買い求め、また、図書館に行き関連図書を調べたが、国土地理院地形図上にルートおよび同場所をピンポイントで示したものはなかった。唯一手掛かりになるのは、伊藤武著「出羽三山(みちのく書房)」である、もちろん文字による説明のみであり、微妙に言葉を変えながら数か所に渡って記述している。また元三鈷沢に係ると思われる写真が掲載されており、国土地理院地形図と読み比べれば、ある程度絞り込みは出来た。概ね河原歩きですからルートの筋としてはさほど難しい所はないと判断出来た。結果、快晴の中で歩いた現地は、確たる道はなく藪漕ぎ同然ではあるが、河原以外は要所に目印用の赤いテープが枝に結ばれていたこともあり、少しの不安は吹き払いつつ達成したことに安堵している。

4. 要所の写真掲載





P8;三鈷沢遥拝所から撮影した写真その1



月山山頂

P8;三鈷沢遥拝所から。左奥が月山、
右手前が藁田禿山↓（東補陀落の聖地）



大岩稜の頂

P8;三鈷沢遥拝所

Q1;地点からの北方向大岩稜



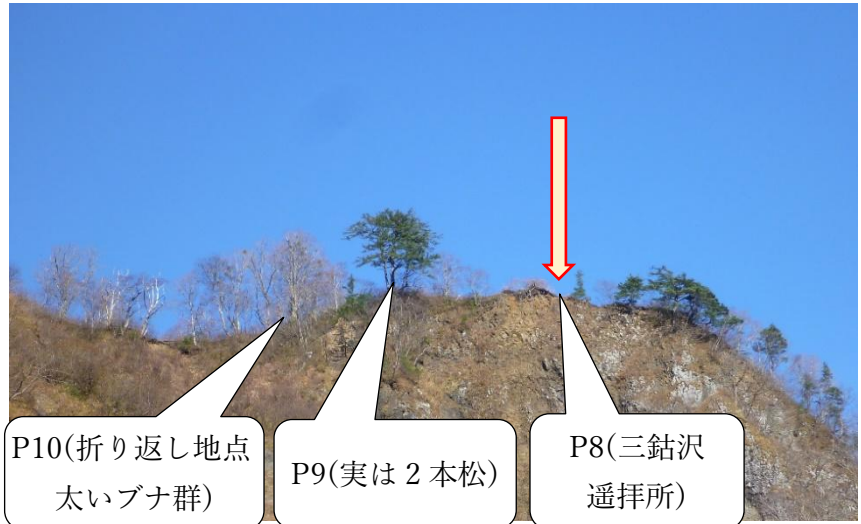
P8;同遥拝所

月山

枯れた椿に紙垂

横たわっていた
ローソク

お賽銭



P10(折り返し地点
太いブナ群)

P9(実は2本松)

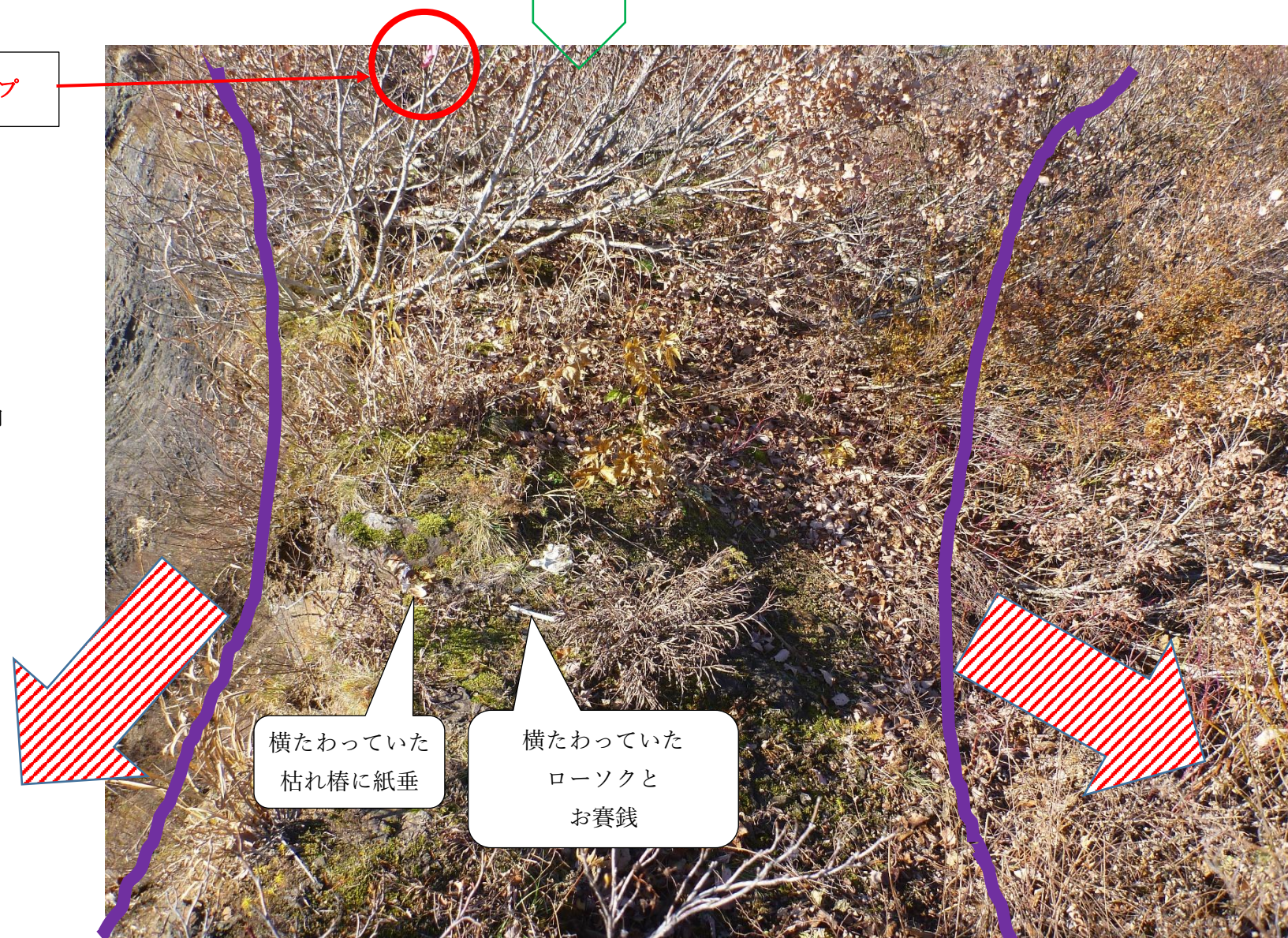
P8(三鈷沢
遥拝所)

Q2;地点からの遥拝所



雑木株、枝に赤いテープ

👉 北西方向



三鈷沢遥拝所の場所

安定した場所は、やや傾斜している幅 1.3m ほどの狭い所であった。

西南方向および東南方向——この写真では左右——は、特に左手はスパッと切れ落ちた断崖絶壁になっていた。

紙垂の着いた枯れ椿小枝、ローソク 1 本、お賽銭が捧げられていた。

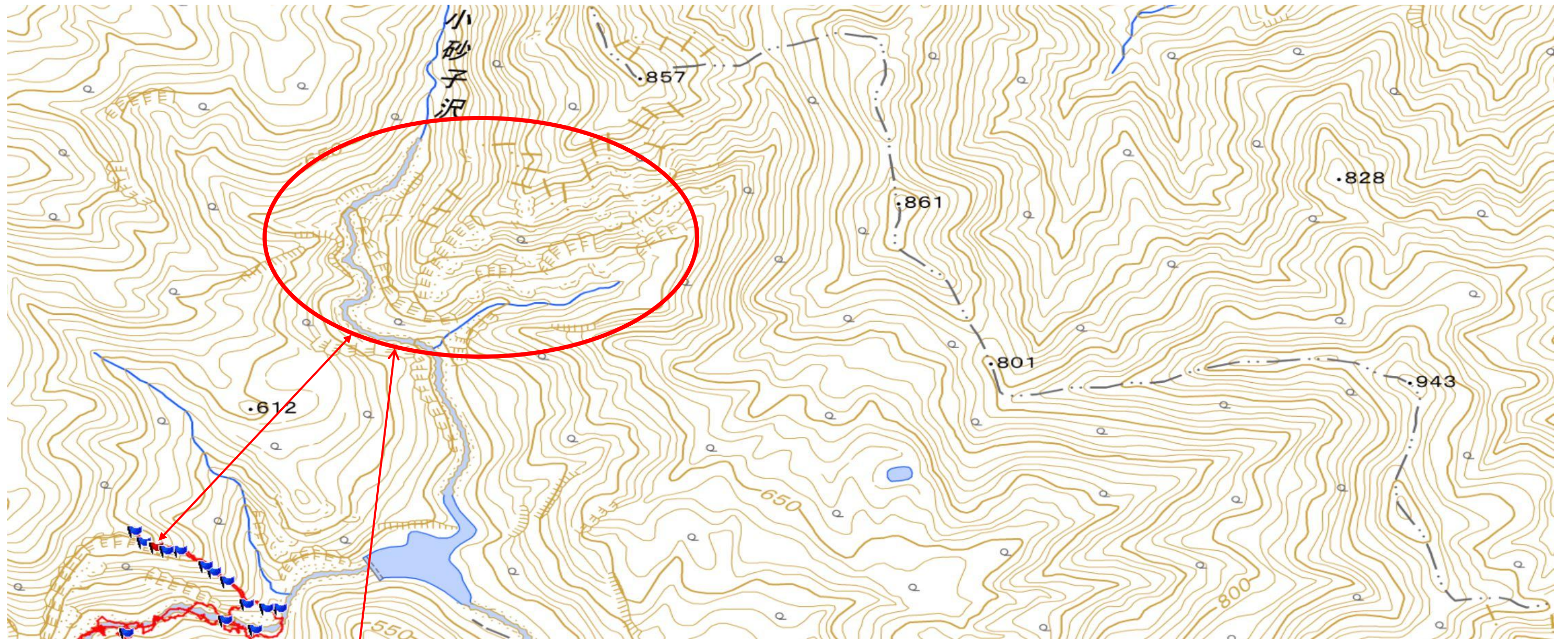
また、比較的大きな塊の雑木株（下の河原からはっきり視認可）の枝に目印の赤いテープが巻き付けられていた。

地震でもあると崩れそうな場所であった。

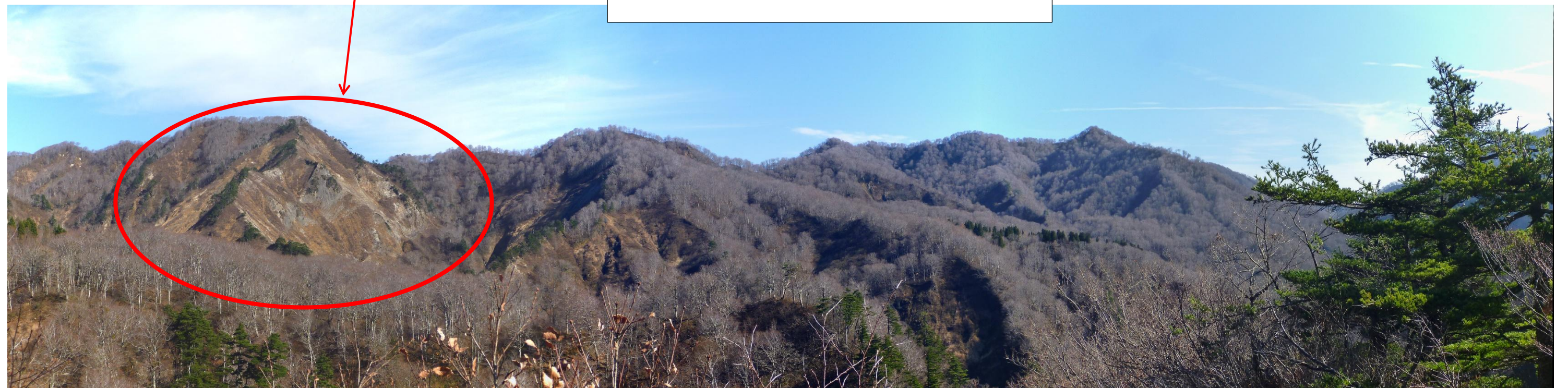
ここから先、北西方向上部には同テープは無かった。



P8;三鈷沢遥拝所から。左奥が月山、
右手前が藁田禿山（東補陀落の聖地）



P8;三鈷沢遥拝所から背面（北北東方面）の眺望





P9(実は2本松)

雑木の大株

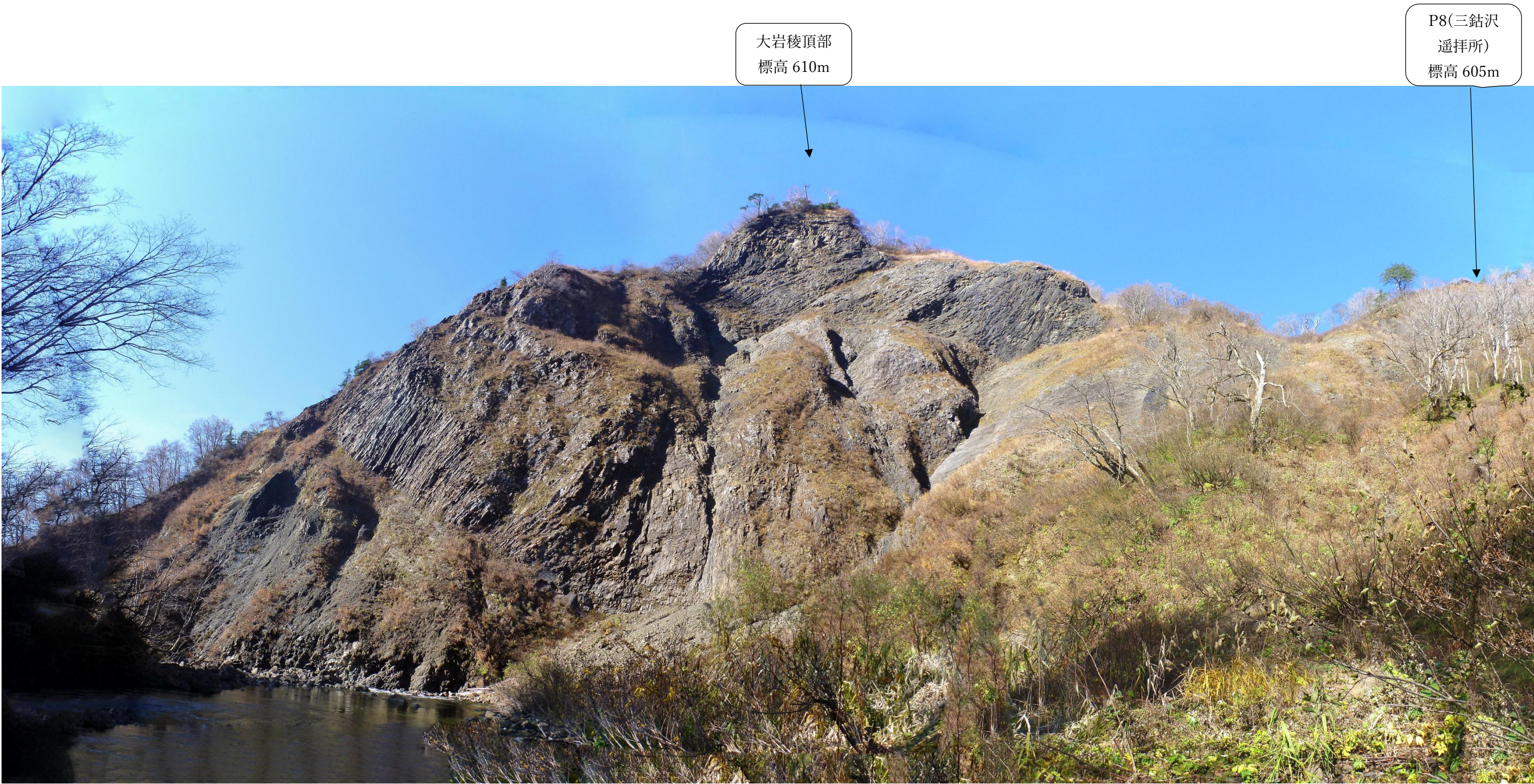
P8(同遥拝所)

{ハラミの松}

8 ページ **Q2** 地点からの三鈷沢遥拝所

「ハラミの松」の所でかつては「覗きの行」があった（五来重）

Q1 地点から眺めた北方向の大岩稜ですが、私は「能除仙岩塊大明神」^{のうじょせんがんかい}と名付けた。



8 ページ Q1 地点からの「能除仙岩塊大明神」^{のうじょせん}と同遥拝所を望む
(崩落したと伝えられる元三鈷沢（洞窟）とは、どこにあったのか、写真撮りながら眺めたが???)

赤沢川を離れ遥拝所に登って行く尾根（櫛の峰）上の特質すべき目印なるもの。



P9 地点、同遥拝所の上部、河原からも目印になる 2 本松



P8 地点、同遥拝所にある「ハラミの松」



8 ページ Q3 地点（尾根上）の巨木ブナ



「昭和・・・」その他のナイフ切込刻字有り